

地域連携活動を
止めるな!!

産大生と地域のかけ橋

ローカレッジ

Local × College



新潟産業大学×柏崎信用金庫
産学金連携による
商品開発・PR 動画制作
いろはや製菓所「あんこジャム」
平田表具店・マリブカフェ

新潟産業大学から水球日本代表
オリンピック選手誕生!
水球部インカレ3位!!



たかだ竹あかり

～2年ぶりの開催に向けて～



グリーンツーリズム演習 椎谷観音堂 RE-attention
地域活動・学生発表交流会 柏崎に関する研究発表会

特集

新潟産業大学×柏崎信用金庫

産学金連携による商品開発・PR動画制作

新潟産業大学は平成29年に柏崎信用金庫との連携協定を結んでいます。この度、柏崎信用金庫の「課題解決型営業」の一環として、産大と地元企業とのコラボが実現しました。

あんこジャム

P R 動画制作

している「いろはや製菓所」が、現代の食生活のスタイルという思いから、令和元年にパンに塗って食べる「あんズと食べ方の提案を動画にして、SNSなどにアップする活動を行いました。

①いろはや製菓所 ～ 食べ方提案と

柏崎市内の菓子店へのあんこの卸しや、和菓子の製造をルに合せて、家庭で気軽にあんこを親しんでもらいたいこジャムを開発。柏崎信用金庫を通じ、若い世代のニープロモーションの動画を制作して欲しいとの依頼を受け、

PR 動画撮影

今回の撮影会では、3年生が考えた「あんこジャム料理対決」の撮影を行いました。最初の対決は朝食テーマ、2戦目がデザートテーマでした。それぞれが工夫して調理や撮影に取り組みました。PR動画は下記のQRコードから見るができます。

▼ あんこと寒天の
フルーツパンチ
【ルレクチェあん】使用

対決の結果は、
完成した動画で
ご覧ください！

▲ あんこラテ
【こしあん】使用

試作会

▼ クロワッサン
【越後姫あん】使用

あんこといえば和風のイメージですが、あんこジャムは洋風のメニューにもピッタリです！

紅葉祭

10月16日、充分な感染対策を行い、2年ぶりに学内で紅葉祭が開催されました。権田ゼミでは2店舗を出店し、うち1店舗であんこジャムの小瓶と、あんこジャムをトッピングしたクラッカーとワッフルを販売しました。学内開催ということでお客さんが来てくれるのか不安でしたが、思っていたよりもたくさんの方に来ていただき、完売することができました。

！ 一番人気は
さくらあんでした！

▲ あんこジャムパフェ
【小倉あん】【さくらあん】使用

権田ゼミ YouTube チャンネル開設

あんこジャムPR動画
続々更新中！チャンネル
登録をお願いします！



新潟産業大学 権田ゼミが
あんこジャムPRに挑戦！

COLLABO ③ MALIBU CAFE

～若者向けメニュー提案とPR～

令和元年8月にオープンしたマリブカフェは、西海岸をイメージさせる空間と隠れ家的な雰囲気のカフェとなっています。飲食メニューは鮮度や旬、地産地消にこだわった食材の数を丁寧に仕上げ、手作りにこだわった自慢の料理を提供しています。今回、「若年層の世代の来店を増やして行きたい」「魅力ある店舗づくりをし、若者たちと協力しながら柏崎を盛り上げたい」という店長の思いから、産大生が協力してコラボメニューの開発に取り組んでいます。



店長 柴野 浩子さん (左)
調理担当 久住 崇仁さん (右)

・ランチタイム：11時～14時半
・夜：17時～22時 (事前予約制)

〒945-0051
新潟県柏崎市東本町1丁目5-23 2F
TEL 0257-47-7290
http://マリブカフェ.com
※感染拡大により臨時休業となる場合があります。HPでご確認ください。



デミハンバーグ▲
▲スパイシーカレーパン、グラタン「パンといす」の角パンを使用



店長の柴野さんは、柏崎は「海」と「山」の自然に恵まれていて、素晴らしい景観がありながらも、県外や市外からの来評者が少ないと感じていました。また、若者たちが利用する商業施設や集う場所も少なく、商店街を歩く人が少なくなってしまう。柏崎の街に少しでも賑わいを取り戻すことができればいいなという思いから、令和元年8月にオープンしました。

お店を始めたきっかけ



コラボメニュー提案

7月に3・4年生に分れて試食会を行い、パスタ・カレー・ハンバーグなどを試食しました。実際に食べてお店の雰囲気にあったメニューを考えたり、これがあったらいいなと思うメニューなどを提案したりしました。11月には試食会を踏まえヒアリングを行い、「カフェア」の開催やコラボメニューの提供に向けて検討を進めています。今後の展開に注目してください！



【いろは製菓所】
【マリブカフェ】
柏崎信用金庫本店
渉外係（令和4年2月）
池原 瑠河さん

いろは製菓所様は若い世代へのPR方法、マリブカフェ様は若い世代の来店増加が課題として挙げられていました。実際に複数回にわたり試食会を実施させていただき、内容の濃いディスカッションが行えたと感じます。

学生様の、若く斬新なアイデアは私も学ぶべきことが多くありました。またコロナ禍という環境の中、行動に非常に制限がありましたが、無事に事業を進めることができ、ありがとうございました。



【平田表具店】
柏崎信用金庫 平田支店
支店長
廣川 功一さん
（新潟産業大学卒業生）

販路拡大・効果的なパッケージングに課題を抱えている事業者から相談を頂き、その解決策として新潟産業大学との産学金連携を提案させて頂きました。大学生によるデザインのアイデアをもとにパッケージを製作して頂き、その上学園祭や地域の物産館で販売までしてもらいました。

本連携により事業者の売上増加を図るとともに、大学のPRも出来たのではないかと思います。これからも地元大学の大学として地域の発展に向けて、一緒に取り組んでいければと思います。

【柏崎信用金庫ご担当者から】

COLLABO ② 平田表具店 蒔絵コースター

キャラクター&パッケージデザイン



平田表具店とは？

平田さんは伝統的な表装作業による、ふすまや障子、壁紙などの張り替えを主にされています。

しかし、近年ふすまを使っている家庭が少なくなったことなどから、もっと身近に感じてもらうため、様々な活動に挑戦しています。「ハコニワ」にある菓子店「あやこや」さんの内装に携わり、凹凸のある壁でも綺麗な円に見せるためにプロジェクトを使うなど普段の表装作業とは違った工夫を



▲「あやこや」での作業の様子

凝らしました。そのような取り組みの一環で、蒔絵コースターの販売を始めました。

蒔絵コースターとは？

蒔絵コースターは「江戸唐紙」の伝統技法のひとつ、金銀砂子細工を使ったペーパーコースターです。金銀砂子細工を施しているので、一枚一枚砂子の位置が違い、同じものは世界で一つしかありません。和紙でできていますが、防水加工もしており、何度も繰り返し使うことができます。

キャラクター&パッケージ作成

蒔絵コースターを販売したばかりのころは、PRがうまくいっていないことからお客さんに価値が分かってもらえず、高級で少々手取りづらい商品でした。

権田ゼミでは蒔絵コースターをたくさんの人に手に取ってもらうためにどうすればいいのか話し合い、色ごとに柏崎の名所をモチーフにしたキャラクターを作り、パッケージに載せることで、幅広い世代の人に買ってもらえるのではないかと考えました。

うことを知ってもらうために、全ての柄がよく見えるようにパッケージを作成しました。

イラストは和紙でできたコースターであることから、和洋折衷をイメージする大正ロマン風にしました。キャラクターの名前、自己紹介文を考え、より手に取ってもらいやすいようにしました。

10月に7色中4色が完成し、産大の学園祭「紅葉祭」で販売した結果、20枚を完売することができ、手応えを感じました。さらに11月には、「柏崎港観光交流センター夕海」で販売を始めました。今年度中に全種類の完成を目指し、春から柏崎市立博物館や「夕海」での販売を予定しています。

◀ 赤坂もみじ × 赤坂山の紅葉



飯塚竹之助 × 飯塚邸「竹あかり」▶



◀ 浜本海斗 × 日本海



新道柿音 × 新道柿 ▶



▲ 平田さんとパッケージデザインを手掛けた3年生メンバー



◀ 柏崎港観光交流センター「夕海」での販売の様子

新潟産業大学から水球日本代表 オリンピック選手誕生!

本学3年次(令和3年度現在)の稲場悠介選手、本学のOGである小出未来選手、水球部アシスタントコーチの棚村克行選手の3名が、日本代表選手として東京2020オリンピックに出場しました。ここでは、東京オリンピックやインカレでの活躍について、また水球部の地域や学校とのつながりの中での活躍について紹介します。



▲ 大学会議室でのオリンピック報告会



▲ アルフォーレにてオリンピック報告会を開催

新潟産業大学より3名の オリンピック選手が誕生

稲場悠介選手、小出未来選手、棚村克行選手
アルフォーレで報告会開催



▲ オリンピック学内限定ビューイング

また、登壇は出来なかったものの、稲場悠介選手はビデオメッセージにて、「初めてのオリンピック出場という貴重な経験を通して、今後さらに強くなっていきたい」と今後への意気込みを語りました。

東京オリンピック2020に、本学3年次在学中の稲場悠介選手をはじめ、小出未来選手や棚村克行選手が出場しました。

コロナ禍に1年遅れという異例の形で開催された東京オリンピックも無事に終わり、10月11日にアルフォーレにてオリンピック報告会が開催されました。そこで選手たちは、様々な形でオリンピック出場選手を支え、応援してきた地域の方々への感謝を伝え、オリンピックの報告を行いました。

オリンピック初出場 稲場悠介選手にインタビュー

経営経営学科在学中の稲場悠介選手に、オリンピック出場直前の令和3年6月14日にオンラインでお話を伺いました!

*稲場選手が水球を始めたきっかけは
何ですか?

*水球を始めた頃はどのように感じましたか?

兄に誘われた水泳教室がきっかけです。兄や姉や近所の友達に誘いで、小学校2年生の頃、水泳を始めました。その水泳教室で兄の友達から水球をやるかと誘って貰ったのがきっかけです。富山県のクラブ人口は全体的に少なかったですが、色々なところから選手が来ていて、15分圏内のところに練習場がありました。

水球を初めてやったときは、ただただ楽しくて、特にシュートを決めたときの嬉しさが印象に残っています。小学校の頃から成長するにつれて、一番になりたい、負けたくない、強くなりたいと言う気持ちがあり、その気持ちはどんどん大きくなっていききました。小学3年生の頃には、「世界一になりたい」と思っていました。

*小学3年生の頃から「世界一になりたい」と思っていたのは凄いですね! そのころはどのような練習を行っていましたか?

富山で行われた中学生や高校生が行う合宿に、小学生の頃から一緒に行っていました。その合宿に行ったときにブルボンの選手に会いがってもらっていました。もっと上手くなりましたかったので、上手い人たちの練習をよく見



▲ 都内で記者会見を開催

ていました。小学5年生から本格的に他の人たちと同じ練習メニューを行っていました。

*水球日本代表に選ばれるまで、どのように力をつけていきましたか?

高校1年の時にモンテネグロで開催された大会で、U18の得点ランキング第3位になりました。その成績をオーストラリアのチームの方が見てくれていました。同じ年に短期でオーストラリアのジュニアチームに入り、海外の国体に参加していました。その後帰国して、日本代表入りをしました。

これまでモンテネグロ、ルーマニア、イタリアと、プロリーグを渡って実力をつけていきました。特にイタリアの水球は世界各国の人たちが集まる世界最高峰で、トップの水球選手は皆イタ

*自分自身の選手としての強み、試合の見所はどこにありますか?

自分の持ち味は、外国人選手と1対1で勝負できることです。他にも遠いところから得点が出るところも強みです。スピード感のある日本の選手の中で、自分のプレイスタイルは異色なので、僕がボールを持ったときは「何かが起こる」と思ってもらえると、水球を楽しんで観ることが出来ると思います。

*最後に、稲場選手を応援している新潟産業大学や柏崎の方々にメッセージをお願いします。

「水球のまち」柏崎は、本当に水球に対して熱い思いを持っていて、地域の方たちに支えられてきていると強く感じています。また、新潟産業大学の人たちにも応援されていて、とても感謝しています。良い結果を残すことで応えたいと思います。

*稲場選手、今回は貴重なお話をありがとうございました。今後の益々の活躍を応援しています!

グリーンツーリズム演習 ～西山自然体験交流施設「ゆうぎ」～

グリーンツーリズム演習とは？

「グリーンツーリズム」の基本的な意味や社会的役割について、実習を通して体得する講義です。
今回は西山自然体験交流施設「ゆうぎ」にフィールドワークで訪れました。

担当教員：池井 豊 先生



西山自然体験交流施設「ゆうぎ」とは？

柏崎市西山町にある、豊かな自然に恵まれた景観を楽しみながら、キャンプやバーベキューが出来たり、丸太作りのログキャビンで気軽に宿泊体験出来る。遊歩道もあり森林浴には最高の環境で、石地海岸も近いので夏には海水浴も楽しめる、アウトドア初心者から上級者まで楽しむことが出来るアウトドア施設。

柏崎市西山町別山 6713 番地 1
TEL：0257-31-6300

雄大な自然！！

ブランコ作り

留学生が1から作りました。
乗り心地抜群！

自然のど真ん中でブランコに乗ることが出来ます。



遊歩道の測量

遊歩道の距離を測りました。また、実際に遊歩道を歩いて気付いたポイントをまとめました。

分かった内容は紙にまとめて発表しました。



豚汁も頂きました。美味しかったです！

陶芸体験



気軽に楽しく体験できました！丁寧に教えてもらえて、初めてとは思えない出来栄になりました。作った湯呑を祖父と祖母にプレゼントしたら、とても喜んでもらえました。



テント張り体験



大きめのテント張りに挑戦しました。やり方を教えてもらいながら、皆と協力して建てました。思ったより時間もかからず出来ました。テント内も広く、快適でした。

地域とのつながり

新潟産業大学水球部は、様々な地域のイベントに参加しています。毎年7月24～26日の3日間行われる「ぎおん柏崎まつり」で、神輿を担ぎながら市内を練り歩く「たる仁和賀」という催しに参加したり、高柳で開催される「高柳雪まつり」では、催しもの一つであるスノーフラッグに参加したりと、積極的に地域との関わりを深め、柏崎の発展と活気づけに努めています。



▲「ぎおん柏崎まつり」での水球部による神輿担ぎ

学校同士のつながり

また水球部では、水球を通じて柏崎市内の中小高校生と交流し、練習試合や指導を通して互いに力を高め合い、水泳や水球の楽しさを知ってもらおうといった活動も行っています。

さらには学校同士の連携事業として、新潟産業大学附属高等学校との高大連携活動にも力を入れています。練習試合や指導といった連携以外にも、地域の環境保全を目的とした海岸清掃活動に共に参加するといった、練習以外での交流にも力を入れ、学校同士の連携をより強いものとしています。

▲「高柳雪まつり」でのスノーフラッグ



▲今年で11年目となる「出前水泳授業」

5年ぶりの快挙 インカレ3位

産大水球部男子は9月23日～26日に柏崎アクアパークで開催された「第97回日本学生選手権水泳競技大会水球競技」(インカレ)にて、5年ぶりとなる全国3位という結果を残しました。この結果を受けて、10月13日に産大にてインカレ祝勝会が行われ、星野三喜大学長や蓮池薫学生委員長から祝福のお言葉がありました。



▲高大連携活動の一環、海岸清掃



▲新潟産業大学で開かれたインカレ祝勝会

本学水球部はインカレに29年連続出場を果たしています。インカレ優勝の目標に向かって、これからも頑張ってください！

たかだ竹あかり 2年ぶりの開催に向けて

令和3年5月から8月にかけて、権田ゼミが例年参加している「たかだ竹あかり」の準備作業を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえて、結果的に今年度もイベントは中止となりましたが、飯塚邸では紅葉の時期に竹あかり用の竹灯籠を用いてライトアップを行いました。

たかだ竹あかりイベントとは？

生活様式の変化と人口減少、高齢化により、地域の竹林が放置され荒廃しています。そこで、その竹林を地域総出で整備し、地域の環境美化と快適な生活環境を実現する事を目的としたイベントとして「たかだ竹あかり」が始まりました。また、伐採した竹を灯籠に加工しイベントで活用することで、地域の活性化を図るとともに、住民同士の連帯感の醸成を図ることも目的としています。



▲ 飯塚邸内で竹灯籠の虫食いの有無を確認



▲ 竹灯籠の数を数える

竹灯籠の選別作業

6月1日に飯塚邸にて、一昨年に飯塚邸会場で使用された約2000本の竹灯籠が再利用できるか否かの選別作業を一齐に行い、虫食いの竹や汚れた竹を廃棄しました。

竹伐採

竹あかりイベントの開催に向けての準備が6月の初めから本格的に始まりました。準備には権田ゼミナールを中心に学友会のメンバーも参加しました。初回は竹の伐採から始めました。伐採した竹を運んだり、枝を鋸で切り落とし、とても大変な作業でした。この伐採作業は2日間に分けて行われました。両日とも炎天下の中の作業となりました。



▲ 竹の伐採、枝のせん定



▲ 竹の長さを揃える
◀ 竹灯籠にカラフルに色を塗る



▲ LEDでライトアップした竹灯籠

竹加工

次の工程として加工作業を行いました。伐採した竹の節を抜いたり、竹を適当な長さに切り揃えたりする作業を行いました。作業3日目でも多くの竹灯籠が出来上がりました。

加工作業最終日では、前回作成した竹灯籠内の汚れを落とし、ペンキを用いてキレイに塗装したりしました。



▲ 竹についた汚れをブラシ等を使って落とす

秋幸苑 ライトアップ

10月22日～11月13日の間の金・土曜日に飯塚邸で紅葉のライトアップが行われました。また、高田コミセン用の竹灯籠も用いて、秋幸苑を照らしました。色とりどりのライトアップによって庭の美しさが一層引き立っているように感じました。



◀▲ 竹灯籠も使って飯塚邸と秋幸苑をライトアップ

管理人 田村貢一さんからお話を伺いました！

なぜ飯塚邸に昭和天皇が滞在されたのか？

飯塚邸に訪れた理由として大きく3つあったと考えられる(田村さんの見解)。
①武家屋敷だった。
大正時代に新しく座敷を作ったため、宿泊ができる状態であった。また武家としての接待の心得があった。
②政治に関わりがあった。
明治時代には貴族院で政治家をしていたため。
③昭和天皇が植物学者であったため。
庭園内には約80種の植物が植えてあったから。

史跡飯塚邸内の見どころ3選



①豪農の太い梁と武家屋敷の細い梁



②奥茶室入口にある板額「聴潮」

③佐渡の赤玉石

権田ゼミからも
4名が運営メンバーと
して参加しました！

新潟地域連携コミュニティ 地域活動・ 学生発表交流会

平成30年度から新潟大学を会場に開催されていた「地域活動・学生発表交流会」ですが、令和元年度の「NIIGATA COC+」活動終了に伴い、「新潟地域連携コミュニティ」が運営を引き継いでいます。今年度、この運営メンバーとして権田ゼミから4名の学生が1年間を通じて参加しました。



▲ Zoomでのミーティングの様子



▲ まちかど研究室のお試し発表の様子

◆今年度の活動では
新たな取り組みを！

「地域活動・学生発表交流会」は県内大学で「地域の活性化」や「社会貢献活動」に取り組む学生が、大学の枠を超えてお互いの活動を知り、活動の課題やオンライン状態でのノウハウ、目指すもの等について知恵を交換し合い、それぞれの活動の発展につながるともに、交流の輪を広げ新しいつながりを見つけられる場にするを目的とし、今年度は「活動のブラッシュアップ・意見交換会」と「成果報告・交流会」の2本立てで継続的に交流の場を持てるように企画しました。

この活動の学生運営メンバーとして県内の大学生7名が参加しましたが、そのうち産大権田ゼミからも4名が参加しました。学生運営メンバーは定期的にZoomでミーティングを行い、発表会の企画や会の運営を行ってきました。

◆まち研の活動を
発表しました！

「活動のブラッシュアップ・意見交換会」に向けて、予行練習も兼ねて、お試しの発表会がZoomで行われ、産大、新潟大、国際情報大の3大学が発表しました。6月28日には産大の「まちかど研究室」の活動発表が行われ、産大の学友会のメンバーや、一緒に活動をしている工科大の学友会のメンバーも参加し、発表しました。まち研の活動紹介や今後の課題について、他大学の方から自分たちでは思い浮かばないようなアイデアを提案していただきました。また運営側としても、本番の発表会に向けて、進行上の様々な課題を洗い出すことができました。

◆活動のブラッシュ
アップ・意見交換会

今年度初の取り組みとして「活動のブラッシュアップ・意見交換会」を企画し、10月28日、11月20日、12月8日にZoomで開催され、県内大学の計9チームが発表しました。2回目では、権田ゼミも柏崎信用金庫、地域の企業や飲食店と連携して行っている3つの活動について発表しました。3回目では、観光ビジネス分野の「アトリエ・ローカルツーリズム」が発表しました。発表者の学生や一般参加の方が参加し、他団体の活動発表を聞いた、課題解決に向けて意見交換や

◆成果報告・交流会

活動の集大成として、2月17日に「成果報告・交流会」がZoomで開催され、計11チームが参加しました。産大からは、意見交換会と同様「権田ゼミ」と「アトリエ・ローカルツーリズム」が参加しました。活動発表やワークショップを行い、来年度以降の活動に活かすことのできるような意見を多数いただきました。また、地域活動の情報交換や交流をするオープンチャットの紹介もあり、今後こうした場も活用していきたいと思っています。

2年連続でオンラインでの発表会となつてしまいましたが、オンラインだからこそ、他大学の運営スタッフの学生たちや教職員の方々と毎週のようにミーティングができ、これはコロナ禍きっかけで生まれた貴重な経験でした。今後はオンラインとリアルの場を上手く活用しながら県内大学のみならずと交流できる場を持てることを期待しています。



▲ 成果発表・交流会の様子

文・デザイン：田邊 青海

権谷観音堂イベント

RE-attention 竹あかりライトアップ

地元カフェとの連携で、権谷観音堂でのイベント開催に協力。
竹灯籠で会場をライトアップ。



久々の対面イベント

「RE-attention」は、柏崎市桜木町の「Cafe confine」の店長、坂井智昭さんが発起人となって、令和3年4月10日に開催されたイベントです。開催場所となった権谷観音堂は、坂井さんがドライブ中に見つけ、魅了されたこのこ



▲ 会場下見の際、皆れにコーヒーを淹れる坂井店長。

と。「再注目」のイベント名に相応しく、素晴らしい眺望や迫力ある大樑や宝物殿等、ポテンシャルを感じる隠れた名スポットです。

ゼミ生は坂井店長のお店での打ち合わせや会場の下見にも参加。私たちならではの方法でイベントを盛り上げたという考えから、以前から関わっている「たかだ竹あかり」で使用した竹灯籠をお借りし、会場をライトアップするという運びになりました。昨年度、丸一年間も対面方式でのイベントができなかったため、ゼミ生一同、意気込んだ様子でした。

竹灯籠でのライトアップ

イベント開催に先立って準備作業の日が設けられ、ゼミ生が手分けして高田コミセンに保管されていた竹灯籠を権谷観音堂に運びました。竹灯籠は口ウソクを使うため、当初は転倒が心配されていましたが、人手の多さを活かし、巡回を行う事で対応しました。



▲ 日が傾く時間帯、竹灯籠に点火して回る学生たち。



イベント当日は日中よりゼミ生が竹灯籠を境内の各所に配置。巡回や駐車場誘導等の仕事をこなしながら夜を待ちました。

日が落ちると、竹灯籠の明かりが境内を幻想的な雰囲気包み込み、夜を彩りました。結果、イベントは盛況のうちに終了。坂井店長も「お堂を管理されている住職さんのご賛同があり、開催できた。コロナでイベントが少なかった反動か、予想以上の来客だった。」と満足そうな様子でした。

権田ゼミでは、今後も地域との繋がりを保つため、対面での取り組みを模索していきたいと考えています。



▲ 竹灯籠の明かりが、境内を幻想的にライトアップ。



取材・文・デザイン：竹田 岳史

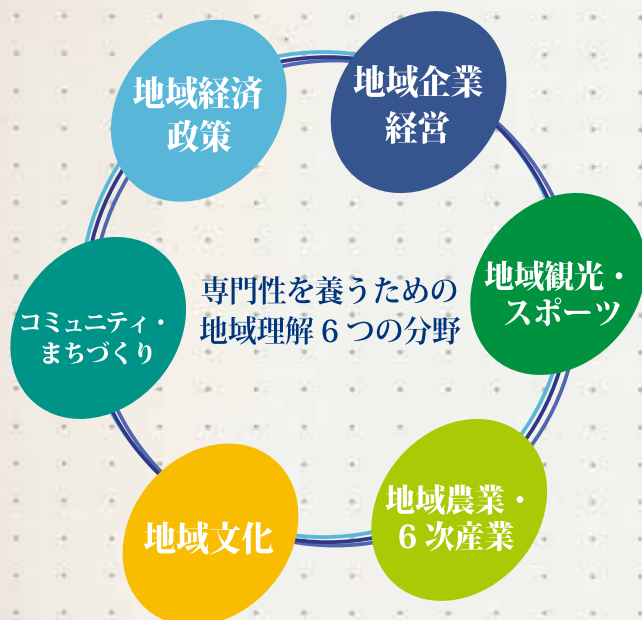


▲1年次「地域理解ゼミナールⅠ・Ⅱ」でも、フィールドワークで積極的に地域に出向きました。

地域に学び、地域をおこす 地域理解ゼミナール

コロナ禍でも
地域理解ゼミは
止まらない！

「地域理解ゼミナール」ってどんな科目？



令和元年度に新規開設した「地域理解ゼミナール」は1、2年次の専門必修科目で、地域おこしのための6分野を柱として、地域の産業・への文化理解を深め、3、4年次の「地域活性ゼミナール」への準備をします。

1年次の「地域理解ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、「経済経営学科」と「文化経済学科」どちらの学科の学生も共通で、1年かけて6分野をまんべんなく学びます。

2年次の「地域理解ゼミナールⅢ・Ⅳ」では、各自の興味関心に合わせて、春学期、秋学期に各1分野を選択し、地域への理解をより深めます。グループで協力して調査・活動に取り組み、各学期末には合同発表会も開催されます。



「地域理解ゼミナールⅢ・Ⅳ」(2年次)

合同発表会で成果報告

7月15日 春学期の合同発表会から

今年度で開講3年目となった「地域理解ゼミナール」ですが、フィールドワークを積極的に取り入れた特色ある学びのスタイルも、次第に定着して来

ました。今年度の2年生は初めて、春学期、秋学期の年2回、各分野のクラス毎の成果を報告する合同発表会が開催されました。本稿では、7月15日に開催した春学期の合同発表会の様子を当日の発表者の皆さんから紹介してもらいます。

3年次からは2年間の学びを踏まえて、学科別の専門分野に分かれての「地域活性ゼミナール」にステップアップします！



地域経済政策分野

担当教員 青木隆明先生

地域と共生する企業

地域経済政策分野(青木ゼミ)では、「中越の歴史とふる里とものづくり」というテーマの元で、座学やフィールドワークを行いました。フィールドワークでは中越地方の歴史を知るために柏崎市立博物館を訪問しました。また、地域のものづくり産業について北星製作所で、地域と時代に沿った経済政策を八海醸造で学びました。

特に八海醸造では、地域や国際社会においての日本酒の在り方、企業の在り方についてレクチャーしていただいたことが印象的でした。

今回訪れたいずれの企業とも、地域との共生を重んじていました。今後は是非自分たちの手と足で中越そして新潟の魅力を発掘して、育てていきたいと思いました。

(経済経営学科2年 奥野飛龍)

地域観光分野

担当教員 春日俊雄先生

「黄金と白銀」から学んだこと

今回私たちは、黄金と白銀について学びました。黄金は主に「夕日」「稲穂」「花火」などで、白銀は、「食」「文化」という意味が込められています。そのことから「黄金と白銀で酔わせる新潟」をコンセプトに、柏崎を中心にフィールドワークや座学を行いました。

フィールドワークで特に印象に残っているのはフィッシュャーマンズケープです。レストランや鮮魚センターなど地元柏崎産の名産や特産品が並んでいて、柏崎の魅力について勉強になりました。

発表ではグループにわかれて黄金と白銀について意見を出し合い、動画を作りました。私たちは柏崎の蕎麦や花火、雪や夕日などについて発表しました。話し合いでは沢山の意見を聞くことができて、知らないこともあったので、とても良い機会になりました。発表会でみなさんに柏崎の魅力を少しでも伝えることができたこと、発表という貴重な経験ができたのでとても良かったです。

(文化経済学科2年 小島遥菜)

地域企業経営分野

担当教員 大石友子先生

企業研究の基礎を実践的に学ぶ

地域企業経営分野(大石ゼミ)では、前半は①企業経営の基礎知識、②地域と企業の関係性、③企業情報の読み方を学び、フィールドワークとして、柏崎新市庁舎、鯨波にあるフィッシュャーマンズケープに行きました。

特にフィッシュャーマンズケープでは、コロナ禍での経営戦略やネット販売ではなく、人と人との繋がりを大切にしていることで、電話での注文を受け付けているなどの話を聞くことができました。

後半は、4グループに分かれて、ポジショニングやSWOT分析を使って、企業と地域の関わりを中心に企業研究、発表を行いました。

全体を通して、これまで企業名しか知らなかった企業の地域貢献や戦略を知って、さらに企業研究への意欲が湧きました。

(経済経営学科2年 小柳翔)



▶ 2年 池嶋さん、田中さんは「地域理解ゼミナール」で調査した「柏崎が誇る長寿企業の実態」について発表しました



◀ ▲ 最優秀賞を受賞した
4年 山田美菜さん

令和4年2月22日、柏崎商工会議所大研修室にて、「柏崎に関する研究発表会」が開催され、本学と新潟工科大学の学生9組が、柏崎や地域の活性化に関する研究成果を発表しました。

昨年度は本学は大学会議室から、工科大生は各自宅からの発表だったため、発表者が一堂に会した形は2年ぶりでした。一方で参加者は対面とオンラインのハイブリッド型だったこともあり、慣れない雰囲気の中、発表者はやや緊張気味でしたが、興味深い内容が続きました。また今回産大では、2年生2組が「地域理解ゼミナール」での成果を発表したことも印象的でした。

審査の結果、最優秀賞が同点で2組、優秀賞が1組選ばれました。最優秀賞は工科大生1組と、文化経済学科4年・山田美菜さんの「小さな観光と関係人口に関する考察」が受賞、優秀賞は同学科4年・田邊青海さん、太田瑞希さんの「産学金連携による商品開発・PR動画」が受賞しました。



まちかど研究室(新潟産業大学権田ゼミ)

YouTube

Twitter

NSU 学生広報

Twitter



産大生の学生生活を「学生広報チーム」メンバーが学生目線で情報発信!

ゼミナールの地域連携活動や「あんこジャム」PR動画も続々更新!



SNSで
情報発信して
います!

産大生と地域のかけ橋
ローカレッジ Vol.13

2022年3月25日発行

編集・発行責任者
新潟産業大学 経済学部講師
権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。
今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地
新潟産業大学 地域連携センター
TEL: 0257-24-8441
FAX: 0257-22-1300
Email: renkei@ada.nsu.ac.jp

今春の卒業生たちは3,4年次の2年間のマスク生活で、学内行事や地域イベント等、途中で準備を進めた上での規模縮小や中止という流れを何度も経験し、悔しい思いを重ねてきました。そんな中でも今年度は、昨年度よりも「工夫してやってみよう」という場面も少しずつ増えてきました。今回紹介した産学金連携事業のような「PR活動」へのシフトは、動画制作やSNSの活用を採り入れながら、この間、他大学でも積極的に行われていたようです。また「人と人とがふれあう」イベントについても、「紅葉祭」の学内限定での開催や、年度末には東京電力のご協力により、少人数でのワークショップ「柏崎ホビー駅伝」もシリーズで開催できました。

そして、オンラインで他大学と頻りに繋がり、「地域活動・学生発表交流会」の運営メンバーを産大生4名が1年間務めることができたのは、それまでの地理的なハードルを越えた、コロナ禍での思いがけない成果でした。マスクなしの笑顔で語り合い、ふれあえる日を待ち焦がれながら、今後は対面とオンラインをミックスした、多様な交流の場が生まれる可能性を感じています。

編集スタッフ: 文化経済学科4年 権田ゼミナール

五十嵐 李菜 太田 瑞希 佐藤 琴音 菅原 綾太 鈴木 白夜 竹田 岳史
田邊 青海 コラトタゲチャットミニペレラー 李 寧
文化経済学科3年 権田ゼミナール
市橋 舞紀 杉田 有紀奈 本間 陸斗 和田 渚佐

(学年は2022年3月現在のものです)